

科目名	戦略情報論特講	担当者	キハラ ジュン 木原 淳	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目は、インテリジェンス、とりわけそのサイクルとカスタマーとの関係に関する理解を踏まえて、米国の国防戦略の展開を題材として、国防総省がどのような問題設定を行い、みずからを取り巻く環境をどのように解き明かし、それに対応した戦略を策定・実行してきたのかを振り返ることで、戦略とこれを支える国際環境の分析の関わりと重要性を学び、世界の現状を理解し説明する力、論理的・批判的思考力、挑戦力とコミュニケーション力を身につけることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 戦略とこれを支える国際環境の分析との関係の考察から得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際安全保障でインテリジェンスが果たす役割について論理的・多面的に説明することができるようになる。 ・インテリジェンスの作成者とカスタマーが切り分けられていることから生ずるメリット・デメリットと課題の改善策について説明できるようになる。 ・冷戦期を含む米国の核・軍事戦略の変遷について主体的に調査して説明できるようになる。 ・ネットアセスメントがアメリカの国防政策を向上させるために果たした役割を説明できるようになる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1つのレポートの作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 25 時間以上、Manaba-Folio への提出・再提出のやり取りに 20 時間以上を目安とします。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材を選定し、あらかじめ設定された課題について Manaba-Folio でレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、インタラクティブな添削指導を実施します。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本教材を踏まえて、さらに参考図書やその他の関連文献もリサーチして下さい。 2. 基本教材と参考図書等は、レポート課題の問題意識を念頭に置きながら読んで下さい。 3. 基本教材と参考図書を批判的に総合して多面的・多層的な理解を形成して下さい。 4. 基本教材1のレポート課題1及び2並びに基本教材2のレポート課題1という裾野の積み上げで、基本教材2のレポート課題2に到達することを想定しています。 		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期は「基本教材1」を、後期は前期の学習を踏まえて「基本教材2」を学習します。 2. 前期レポートは7月末までに、後期レポートは11月中旬までに初稿を提出してください。初稿提出前の段階でも、適宜、質疑応答を行いましょう。 3. 教員からのコメントを考慮した上で、レポートに修正を施し、誤字・脱字を確認した上で最終稿を提出してください。最終稿の提出期限は、学事歴で定められている提出期限とします。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	最終レポートの完成度（構成・論理性・引用文献・独創性）を評価します。
	平常評価	20 %	レポートの作成過程における質問、初稿提出後のレポートの改善の状況など在宅学習にいかに取り組んだかを評価します。
履修者への要望	<p>日本ではあまりなじみがないにもかかわらず、国際的には重要な役割を果たしている題材を取り扱います。基本教材2の意義を十分に理解するには、基本教材1・2とその参考図書等の幅広い裾野の積み上げが必要になります。しかし、挑戦の末に頂上にたどり着けば、そこからはこれまでとは全く違って見える世界が広がることになるでしょう。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 小谷賢 教材名： 『インテリジェンス—国家・組織は情報をいかに扱うべきか』 (ちくま学芸文庫, 2012年) ISBN:978-4-480-09418-6 1,200円＋税
	本教材は、米国の制度等を前提とする類書とは異なり、日本のインテリジェンスの課題に取り組むとの観点から、日本の読者向けに国家インテリジェンスの歴史、組織、プロセス、保全とカウンターインテリジェンス、秘密工作、統制・監視、国際関係等を取り上げた入門書です。
参考図書	北岡元『インテリジェンスの歴史—水晶玉を覗こうとする者たち』(慶応義塾大学出版会, 2008年) ISBN:4-7664-1300-8 2,500円＋税 北岡元『インテリジェンス入門—利益を実現する知識の創造』(慶応義塾大学出版会, 2009年) ISBN:978-4-7664-1682-4 2,400円＋税 マーク・M・ローエンター『インテリジェンス—機密から政策へ』 (慶応義塾大学出版会, 2011年) ISBN:978-4-7664-1826-2 4,200円＋税
履修上のポイント	教材、参考図書等を参照して、外交、安全保障や軍事におけるインテリジェンスという概念とそこでインテリジェンスが果たした役割の理解に取り組んでください。その際、インテリジェンスのカスタマーである政策や戦略の策定者との関係に留意して下さい。
レポート課題 1	国際安全保障を確たるものとする上で国家インテリジェンスが果たす役割について論述せよ。(4,000字程度) 留意点： 論述に際しては、インテリジェンスがカスタマーをどう支援するかに着意して下さい。
レポート課題 2	インテリジェンスの作成者とカスタマーが切り分けられていることから生ずるメリット・デメリットと課題の改善策について論述せよ。(4,000字程度) 留意点： 教材や参考図書を踏まえて横断的かつ総合的な観点から課題に臨んでください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： アンドリュー・クレピネヴィッチ, バリー・ワッツ 教材名： 『帝国の参謀 アンドリュー・マーシャルと米国の軍事戦略』(日経BP社, 2016年) ISBN:978-4-8222-5149-9 2,800円＋税
	本教材では、冷戦期から冷戦後の四半世紀にかけて、米国の戦略的優位を実現するために、国防総省の幹部が注目すべき課題や活用すべき機会を明らかにしてきたネットアセスメントの知の歴史をたどることができます。
参考図書	岩田修一郎『核戦略と核軍備管理』(日本国際問題研究所, 1996年) ISBN:4-8193-0383-X 2,300円＋税(序章(1-14頁)及び第一章(15-44頁)) 浅川広紀『戦後米国の国際関係』(武蔵野大学出版会, 2010年) ISBN:978-4-903281-18-6 3,300円＋税 ジョセフ・S・ナイ・ジュニア, デイヴィッド・A・ウェルチ 『国際紛争—理論と歴史[原書第10版]』(有斐閣, 2017年) ISBN:978-4-641-14917-5 3,000円＋税(第5章, 第7章4)
履修上のポイント	教材、参考図書等を参照して、冷戦期から冷戦後の米国の戦略の変遷の理解に取り組んでください。その上で、ネットアセスメントが米国を取り巻く環境に関してどのような問題設定を行ったことが爾後の情報活動や戦略の策定等に繋がったのかを考察してください。
レポート課題 1	冷戦期の米国の核・軍事戦略の変遷について論述せよ。(4,000～6,000字程度) 留意点： ここでの冷戦期とはジョージ・H・W・ブッシュ政権までとします。
レポート課題 2	ネットアセスメントがアメリカの国防戦略をどのように向上させたのかを、その問題設定や政策判断に必要な情報をどのように用いたのかという点に触れながら論述せよ。(4,000～6,000字程度) 留意点： 戦略とこれを支える国際情報の分析との関係と重要性に着意して下さい。